

四半期報告書

(第113期第3四半期)

自 平成28年10月 1日

至 平成28年12月31日

三菱地所株式会社

目 次

	頁
表 紙	1
第一部 企業情報	2
第1 企業の概況	2
1 主要な経営指標等の推移	2
2 事業の内容	2
第2 事業の状況	3
1 事業等のリスク	3
2 経営上の重要な契約等	3
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	3
第3 提出会社の状況	13
1 株式等の状況	13
(1) 株式の総数等	13
(2) 新株予約権等の状況	13
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	13
(4) ライツプランの内容	13
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	13
(6) 大株主の状況	13
(7) 議決権の状況	14
2 役員の状況	14
第4 経理の状況	15
1 四半期連結財務諸表	16
(1) 四半期連結貸借対照表	16
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	18
四半期連結損益計算書	18
四半期連結包括利益計算書	19
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	20
2 その他	29
第二部 提出会社の保証会社等の情報	29

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年2月13日
【四半期会計期間】	第113期第3四半期（自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日）
【会社名】	三菱地所株式会社
【英訳名】	Mitsubishi Estate Company, Limited
【代表者の役職氏名】	代表執行役 執行役社長 杉 山 博 孝
【本店の所在の場所】	東京都千代田区大手町一丁目6番1号
【電話番号】	(03) 3287-5100
【事務連絡者氏名】	経理部長 四 塚 雄 太 郎
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区大手町一丁目6番1号
【電話番号】	(03) 3211-0277
【事務連絡者氏名】	経理部長 四 塚 雄 太 郎
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号） 三菱地所株式会社横浜支店 （横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号） 三菱地所株式会社名古屋支店 （名古屋市中区栄二丁目3番1号） 三菱地所株式会社関西支店 （大阪市北区天満橋一丁目8番30号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	平成27年度 第3四半期連結 累計期間	平成28年度 第3四半期連結 累計期間	平成27年度
会計期間	自 平成27年 4月 1日 至 平成27年12月31日	自 平成28年 4月 1日 至 平成28年12月31日	自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日
営業収益 (百万円)	711,965	824,111	1,009,408
経常利益 (百万円)	109,191	136,612	144,851
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	78,434	89,384	83,426
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	64,294	64,670	51,633
純資産額 (百万円)	1,671,886	1,707,964	1,659,180
総資産額 (百万円)	5,068,452	5,404,508	5,311,840
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	56.53	64.42	60.13
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	56.52	64.40	60.12
自己資本比率 (%)	30.1	28.5	28.4
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	66,353	97,087	135,821
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△121,163	△252,088	△231,003
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	101,687	△9,895	309,237
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	244,340	237,654	412,392

回次	平成27年度 第3四半期連結 会計期間	平成28年度 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成27年10月 1日 至 平成27年12月31日	自 平成28年10月 1日 至 平成28年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	15.97	22.97

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 営業収益には消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は前年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の関係会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）における我が国経済は、緩やかな回復基調が続いております。企業部門においては、設備投資は横ばい圏で推移しておりますが、研究開発投資や生産に持ち直しの動きが見られます。家計部門においては、雇用需給のタイト化を受けて賃金が持ち直すなど、明るい動きが継続しているものの、消費者マインドの改善の遅れや、根強い節約志向を背景に個人消費は今のところ横ばい圏で推移しています。

今後の見通しとしては、雇用・所得環境の改善が続く中で、各種政策の効果もあって、穏やかに経済が持ち直すことが期待されています。一方、海外においては、新大統領就任後の米国の政策転換、中国をはじめとするアジア新興国や資源国等の景気下振れ、英国EU離脱をはじめとする欧州政局など、複数の要素により我が国の景気が下押しされるリスクがあり、海外経済の不確実性の高まりや金融資本市場の変動の影響に留意する必要があります。

当第3四半期の業績は、営業収益が824,111百万円で前年同期に比べ112,145百万円の増収（+15.8%）、営業利益は150,444百万円で29,205百万円の増益（+24.1%）、経常利益は136,612百万円で27,420百万円の増益（+25.1%）となりました。

特別損益につきましては、前年同期において固定資産売却益2,652百万円、投資有価証券売却益11,320百万円、未払金取崩益4,098百万円を特別利益に計上したのに対して、当第3四半期においては、負ののれん発生益13,505百万円、受取和解金1,966百万円を特別利益に、固定資産除却関連損1,836百万円、減損損失1,287百万円、段階取得に係る差損6,431百万円を特別損失に計上しております。

この結果、税金等調整前四半期純利益は142,528百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期に比べ10,950百万円増益（+14.0%）の89,384百万円となりました。

当第3四半期の業績及び各セグメントの業績は次の通りであります。

(単位：百万円)

区 分	前第3四半期	当第3四半期	増減
営業収益	711,965	824,111	112,145
営業利益	121,239	150,444	29,205
経常利益	109,191	136,612	27,420
親会社株主に帰属する 四半期純利益	78,434	89,384	10,950

(単位：百万円)

	前第3四半期		当第3四半期	
	営業収益	営業利益又は 営業損失 (△)	営業収益	営業利益又は 営業損失 (△)
ビル事業	316,368	84,986	370,656	103,625
生活産業不動産事業	65,640	19,690	66,794	19,855
住宅事業	220,012	7,750	276,947	13,899
海外事業	55,571	14,939	54,079	23,157
投資マネジメント事業	18,096	3,252	17,047	4,343
設計監理事業	11,271	△301	11,099	△621
ホテル事業	25,104	1,818	25,575	2,024
不動産サービス事業	13,717	△196	17,000	504
その他の事業	2,837	47	3,102	188
調整額	△16,655	△10,749	△18,193	△16,532
合 計	711,965	121,239	824,111	150,444

(a) ビル事業

- 当第3四半期においては、平成28年4月に竣工した「大手町フィナンシャルシティ グランキューブ 及び 宿泊施設棟」の収益が寄与したことから、建物賃貸収益は前年同期に比べ、増収となりました。
なお、当社の平成28年12月末の空室率は3.08%となっております。
- この結果、当セグメントの営業収益は前年同期に比べ54,287百万円増収の370,656百万円となり、営業利益は18,638百万円増益の103,625百万円となりました。
- 平成20年からの10年間となる「第2ステージ」では、「第1ステージ」から取り組んできた丸の内再構築の更なる「拡がり」と「深まり」を目指し、「大手町・丸の内・有楽町地区」全域にその効果を波及させる計画であり、「大手町フィナンシャルシティ グランキューブ 及び 宿泊施設棟」が平成28年4月に、「大手町ホトリア」街区においては、「大手門タワー」（平成27年11月竣工）に続き「大手町パークビル」が平成29年1月に竣工しました。

(単位：百万円)

摘 要	前第3四半期		当第3四半期	
	貸付面積等	営業収益	貸付面積等	営業収益
建物賃貸	貸付面積	265,214	貸付面積	280,390
	(所有) 2,091,997㎡		(所有) 2,160,757㎡	
	(転貸) 1,365,770㎡		(転貸) 1,365,378㎡	
	合計 3,457,767㎡		合計 3,526,135㎡	
ビル運営管理受託	管理受託面積 2,371,360㎡	15,623	管理受託面積 2,269,829㎡	15,858
営繕請負工事	受注件数 3,169件 完成件数 3,112件	10,641	受注件数 3,162件 完成件数 3,118件	8,310
地域冷暖房	供給先 オフィスビル88棟 ホテル5棟 地下鉄16駅舎	6,084	供給先 オフィスビル87棟 ホテル5棟 地下鉄16駅舎	6,203
その他	—	18,803	—	59,892
合 計	—	316,368	—	370,656

- (注) 1. 金額は消費税等抜きで表示しております。
2. 営業収益には、セグメント間の内部営業収益又は振替高を含めております。

(b) 生活産業不動産事業

- ・当第3四半期においては、(株)東京流通センターを連結したこと等により、増収となりました。
- ・この結果、当セグメントの営業収益は前年同期に比べ1,154百万円増収の66,794百万円となり、営業利益は165百万円増益の19,855百万円となりました。

(単位：百万円)

摘 要	営 業 収 益	
	前第3四半期	当第3四半期
生活産業不動産	65,640	66,794
合 計	65,640	66,794

- (注) 1. 金額は消費税等抜きで表示しております。
2. 営業収益には、セグメント間の内部営業収益又は振替高を含めております。

(c) 住宅事業

- ・マンション事業の主な売上計上物件
 - 「ザ・パークハウス晴海タワーズ ティアレジデンス」 (東京都中央区)
 - 「ザ・パークハウスグラン南青山」 (東京都港区)
 - 「ザ・パークハウス文京江戸川橋」 (東京都文京区)
 - 「ザ・パークハウス船堀」 (東京都江戸川区)
 - 「ザ・パークハウス花小金井ガーデン I 街区」 (東京都小平市)
- ・当第3四半期においては、マンション売上計上戸数は前年同期並みに推移しましたが、前年同期に比べ1戸当たり販売単価が増加したこと等により、増収となりました。
- ・その他事業においては賃貸住宅物件の売却等により、増収となりました。
- ・この結果、当セグメントの営業収益は前年同期に比べ56,935百万円増収の276,947百万円となり、営業利益は6,149百万円増益の13,899百万円となりました。

(単位：百万円)

摘 要	前第3四半期		当第3四半期	
	販売数量等	営業収益	販売数量等	営業収益
マンション	売上計上戸数 2,212戸	126,907	売上計上戸数 2,224戸	137,246
住宅管理業務受託	受託件数 330,558件	35,044	受託件数 332,645件	35,171
注文住宅	—	18,805	—	18,741
その他	—	39,254	—	85,787
合 計	—	220,012	—	276,947

- (注) 1. 金額は消費税等抜きで表示しております。
2. 営業収益には、セグメント間の内部営業収益又は振替高を含めております。
3. 他社との共同事業物件の売上計上戸数及び金額は当社持分によっております。

(d) 海外事業

- ・当第3四半期においては、前年同期に保有する物件の売却に伴う収益を計上した反動等により、減収となりました。
- ・一方で、営業利益については、一過性の収益を計上したこと等により、増益となりました。
- ・この結果、当セグメントの営業収益は前年同期に比べ1,491百万円減収の54,079百万円となりましたが、営業利益は8,217百万円増益の23,157百万円となりました。

(単位：百万円)

摘 要	前第3四半期		当第3四半期	
	貸付面積等	営業収益	貸付面積等	営業収益
不動産開発・賃貸	貸付面積 479,411m ² 管理受託面積 205,538m ²	52,688	貸付面積 403,284m ² 管理受託面積 173,119m ²	51,692
その他	—	2,882	—	2,387
合 計	—	55,571	—	54,079

- (注) 1. 金額は消費税等抜きで表示しております。
2. 営業収益には、セグメント間の内部営業収益又は振替高を含めております。

(e) 投資マネジメント事業

- ・当第3四半期においては、前年同期に比べ円高となったこと等により、減収となりました。
- ・この結果、当セグメントの営業収益は前年同期に比べ1,048百万円減収の17,047百万円となりましたが、営業利益は1,090百万円増益の4,343百万円となりました。

(単位：百万円)

摘 要	営 業 収 益	
	前第3四半期	当第3四半期
投資マネジメント	18,096	17,047
合 計	18,096	17,047

- (注) 1. 金額は消費税等抜きで表示しております。
2. 営業収益には、セグメント間の内部営業収益又は振替高を含めております。

(f) 設計監理事業

- ・(株)三菱地所設計において、「大手町パークビル」(東京都千代田区)等の設計監理業務他の収益を計上しました。
- ・当第3四半期においては、設計監理収益は取扱件数並びに1件当たり金額が増加したことにより増収となりましたが、内装工事収益は1件当たり金額が減少したことにより減収となりました。
- ・この結果、当セグメントの営業収益は前年同期に比べ171百万円減収の11,099百万円となり、営業損失は621百万円と前年同期に比べ320百万円悪化しました。

(単位：百万円)

摘 要	前第3四半期		当第3四半期	
	売上件数等	営業収益	売上件数等	営業収益
設計監理	受注件数	732件	受注件数	843件
	売上件数	588件	売上件数	637件
内装工事	受注件数	136件	受注件数	155件
	売上件数	117件	売上件数	133件
その他	—	898	—	—
合 計	—	11,271	—	11,099

- (注) 1. 金額は消費税等抜きで表示しております。
2. 営業収益には、セグメント間の内部営業収益又は振替高を含めております。

(g) ホテル事業

- ・ホテル事業統括会社である(株)ロイヤルパークホテルズアンドリゾーツを中心に、「ロイヤルパークホテルズ」各ホテルの体質強化及び「ロイヤルパークホテル ザ (+都市名)」のブランド名による新たなホテル事業の展開を図っております。
- ・当第3四半期においては、宿泊部門収益等が増加したことにより、営業収益は前年同期に比べ470百万円増収の25,575百万円となり、営業利益は206百万円増益の2,024百万円となりました。

(単位：百万円)

摘 要	営 業 収 益	
	前第3四半期	当第3四半期
宿泊部門	12,205	12,548
レストラン・バー部門	5,168	5,137
宴会部門	6,175	6,462
その他	1,555	1,427
合 計	25,104	25,575

- (注) 1. 金額は消費税等抜きで表示しております。
2. 営業収益には、セグメント間の内部営業収益又は振替高を含めております。

(h) 不動産サービス事業

- ・当第3四半期においては、不動産仲介の取扱件数並びに1件当たりの手数料が増加したこと等により、増収となりました。
- ・この結果、当セグメントの営業収益は前年同期に比べ3,283百万円増収の17,000百万円となり、営業損益は700百万円改善し504百万円の利益を計上しました。

(単位：百万円)

摘 要	前第3四半期		当第3四半期	
	売上件数等	営業収益	売上件数等	営業収益
不動産仲介	取扱件数 881件	5,070	取扱件数 913件	5,826
その他	—	8,647	—	11,174
合 計	—	13,717	—	17,000

- (注) 1. 金額は消費税等抜きで表示しております。
2. 営業収益には、セグメント間の内部営業収益又は振替高を含めております。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、税金等調整前四半期純利益、長期借入れ等による収入、有形固定資産の取得、社債の償還等による支出により、237,654百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期における営業活動によるキャッシュ・フローは、97,087百万円の資金の増加（前年同期比+30,734百万円）となりました。これは、税金等調整前四半期純利益142,528百万円に非資金損益項目である減価償却費56,545百万円等を調整した資金の増加に対し、エクイティ出資の増加や法人税等の支払等により資金が減少したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期における投資活動によるキャッシュ・フローは、252,088百万円の資金の減少（前年同期比△130,924百万円）となりました。これは有形固定資産の取得等により資金が減少したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期における財務活動によるキャッシュ・フローは、9,895百万円の資金の減少（前年同期比△111,582百万円）となりました。これは社債の償還等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針の内容の概要、基本方針の実現に資する特別な取組みの内容の概要、基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みの内容の概要、並びに各取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由は、以下の通りであります。

なお、当社は、平成28年6月29日開催の当社第117回定時株主総会における承認決議に基づき、当社株式の大量取得行為に関する対応策（以下「本プラン」といいます。）を更新しております。

また、平成23年6月1日に平成23年度を初年度とする中長期経営計画「BREAKTHROUGH 2020」（平成23～32年度）を策定・公表しております。

一 基本方針の内容の概要

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業価値の源泉を理解し、当社が企業価値ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保、向上していくことを可能とする者である必要があると考えています。

当社は、当社の支配権の移転を伴う買収提案についての判断は、最終的には当社の株主全体の意思に基づき行われるべきものと考えております。また、当社は、当社株式について大量買付がなされる場合、これが当社の企業価値・株主共同の利益に資するものであれば、これを否定するものではありません。

しかし、株式の大量買付の中には、その目的等から見て企業価値・株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの等、大量買付の対象となる会社の企業価値・株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

また、当社株式の大量買付を行う者が当社の企業価値の源泉を理解し、これらを中長期的に確保し、向上させられるのであれば、当社の企業価値・株主共同の利益は毀損されることとなります。

当社としては、このような当社の企業価値・株主共同の利益に資さない大量買付を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であり、このような者による大量買付に対しては必要かつ相当な対抗をすることにより、当社の企業価値・株主共同の利益を確保する必要があると考えます。

二 基本方針の実現に資する特別な取組みの内容の概要

(イ) 基本方針の実現に資する特別な取組み

当社グループの企業価値は、不動産に関連する様々な事業・資産のポートフォリオをベースとし、これらの組み合わせや相互補完によりもたらされるシナジーにより高められると共に、不動産事業に関する専門的な知識、深い経験、ノウハウによって支えられています。具体的には、従来から強みがあり、収益の柱となっている、資金投下によりデベロップメント事業を行う「投資開発事業領域」と、「オフィス（PM・リーシング）」、「商業・物流」、「投資マネジメント」、「設計監理」、「ホテル」、「不動産サービス」等、グループ力を生かしてソリューションサービスを提供する「マネジメント・サービス事業領域」との間のバリューチェーンを強化し、ハード・ソフト一体で顧客起点の価値創造を行うという視点から、オフィスビル、住宅、商業施設、物流施設、ホテル等の開発やこれらを組み合わせた複合開発、更にはより広範にわたる面的な開発等、様々なプロジェ

クトを推進しております。こうした様々な事業の推進にあたっては各ステークホルダーとの信頼関係の構築が不可欠であり、長期的視野に立った総合的なまちづくりが事業価値の最大化につながる重要な要素と考えております。

平成23年度を初年度とする中長期経営計画「BREAKTHROUGH 2020」（平成23～32年度）においては、国内市場の成熟化やグローバル化等、当社グループを取り巻く経営環境の変化を踏まえ、より長期的な視点で経営方針を定めるべく、10年間の長期基本戦略と3年間の中期戦略を定め、着実に事業に取り組んで参りました。平成26年度からの中期経営計画では、本計画期間を、「企業価値向上を実現する3年間」と位置付けており、成長性、効率性、健全性に関する全社計数目標を設定し、各事業領域における開発機能の更なる強化や、グループ内の連携、バリューチェーンの強化を推進すると共に、中期経営計画を実現するための組織体制の整備を行っております。あわせて、財務体質の強化を目的とした資産ポートフォリオマネジメント及びリサーチ機能の拡充等による経営基盤の強化、適切な経営資源配分による事業ポートフォリオマネジメントの推進等を全社テーマとして設定し、災害に強いまちづくりへの意識を重視しながら、人々のワークスタイル・ライフスタイルへの安心・安全・快適を軸にした新たな価値の提案・提供を行い、グループとして持続的に成長し社会に貢献する会社を目指し、企業価値・株主共同の利益の向上に鋭意取り組んでおります。

また、当社においては、コーポレートガバナンス機能の充実は、経営上の最重要課題の一つであるとの認識の下、多様なバックグラウンドを有する社外取締役を複数選任すると共に、取締役の任期を1年とする等、コーポレートガバナンス機能の強化を図って参りました。そのような中、取締役会による経営監督機能の更なる強化、並びに業務執行における権限・責任の明確化及び意思決定の迅速化を推進すると共に、経営の透明性・客観性の向上を図るべく、平成28年6月29日開催の当社第117回定時株主総会での承認を経て、指名委員会等設置会社へ移行いたしました。移行後は、全15名中7名を独立した社外取締役が占める取締役会の下で、独立した社外取締役が過半数を占める指名・監査・報酬の3委員会が設置される体制となることから、当該体制において、当社の中長期的な企業価値向上に資する、効率的かつ実効性のあるコーポレートガバナンス機能の更なる高度化を図って参ります。

当社の利益配分については、株主の皆様に対する安定的な利益還元に努めていくことを基本としながら、丸の内再構築をはじめとする今後の事業展開に伴う資金需要にも配慮しつつ、当社グループの業績の水準等を総合的に勘案し、連結配当性向25～30%程度を目処として決定していきたいと考えております。

(ロ) 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み（本プラン）の内容の概要

1. 本プランの目的

本プランは、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止し、当社の企業価値・株主共同の利益に反する大量買付を抑止すると共に、大量買付が行われる際に、当社取締役会が株主の皆様へ代替案を提案したり、あるいは株主の皆様がかかる大量買付に応じるべきか否かを判断するために必要な情報や時間を確保すること、株主の皆様のために交渉を行うこと等を可能とすることを目的としております。

2. 本プランの概要

本プランは、当社株券等の20%以上を取得しようとする者が現れた際に、買収者に事前の情報提供を求めるなど、上記の目的を実現するために必要な手続を定めております。買収者は、本プランに係る手続に従い、当社取締役会において本プランに定める新株予約権の無償割当ての不実施に関する決議がなされた場合に、当該決定時以降に限り当社株式の大量買付を行うことができるものとされています。

当社は、本プランにおける対抗措置の発動の判断について、取締役の恣意的判断を排するため、当社経営陣から独立した当社社外取締役等のみから構成される独立委員会において、その客観的な判断を経るものとしております。

買収者は、買付の開始に先立ち、買付の内容の検討に必要な所定の情報を提供するものとされ、また、独立委員会は、当社取締役会に対しても、買収者の買付の内容に対する意見や代替案等の情報を提供するように要求することができます。

独立委員会は、買付の内容や当社取締役会の代替案の検討、買収者との協議・交渉等を行い、かかる検討等の結果、買収者が本プランに定められた手続に従わない場合や当社株式の大量買付が濫用的な買付等である場合等、本プラン所定の発動要件を満たす場合には、当社取締役会に対して、買収者による権利行使は原則として認められないとの行使条件及び当社が買収者以外の者から当社株式と引換えに新株予約権を取得できる旨の取得条項が付された新株予約権を、その時点の当社を除く全ての株主に対して新株予約権無償割当ての方法により割り当てる対抗措置の発動を勧告します。当社取締役会は、独立委員会の勧告を最大限尊重して、新株予約

権の無償割当ての実施又は不実施等に関する決議を行います。また、当社取締役会は、これに加えて、本プラン所定の場合には、株主意思確認総会を招集し、株主の意思を確認することがあります。

本プランに従って新株予約権の無償割当てがなされ、その行使又は当社による取得に伴って買収者以外の株主の皆様当社株式が交付された場合には、1個の新株予約権につき、最大1株までの範囲内で当社取締役会が定める数の当社株式が発行されることから、買収者の有する当社の議決権割合は、最大約50%まで希釈化される可能性があります。

本プランの有効期間は、原則として、平成28年6月29日開催の第117回定時株主総会終了後3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終了の時までとなっております。

三 具体的取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

当社の中長期経営計画、コーポレートガバナンスの強化及び株主に対する安定的な利益還元等の各施策は、当社の企業価値・株主共同の利益を継続的かつ持続的に向上させるための具体的方策として策定されたものであり、まさに当社の基本方針に沿うものです。

また、本プランは、当社株式に対する買付等が行われた際に、当社の企業価値・株主共同の利益を確保するための枠組みであり、基本方針に沿うものです。特に、本プランについては「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則の要件を完全に充足していること、第117回定時株主総会において株主の皆様承認を得ていること、一定の場合に株主意思確認総会において株主意思を確認することとしていること、及び取締役の任期は1年であり、また当社取締役会によりいつでも本プランを廃止できるとされていること等株主意思を重視するものであること、独立性の高い社外取締役によって構成される独立委員会が設置され、本プランの発動に際しては必ず独立委員会の判断を経ることが必要とされていること、独立委員会は当社の費用で第三者専門家を利用し助言を受けることができるとされていること等により、その公正性・客観性が担保されており、企業価値・株主共同の利益に資するものであって、当社の会社役員地位の維持を目的とするものではありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当不動産業界におきましては、分譲マンション市場において、用地取得競争は依然厳しい状況が続き、施工費も未だ高い水準にあります。当社物件の成約率や販売単価等の指標は堅調な状態を示しています。一方で、物件によってその特性や販売価格による好不調の二極化が顕著になりつつあります。J-REIT市場は、投資口価格が堅調な動きを見せるほか、さらなる新規上場も予定されるなど、活況が続いております。また、賃貸オフィス市場においては、引き続き空室率の改善が見られ、回復基調が継続しております。

当社グループは、このように市場や事業を取り巻く外部環境が変化中、着実に事業に取り組んで参りましたが、今後も経営環境の変動、市場の変化に的確に対応し、経営の効率化、収益力の強化を図って参る所存であります。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの財源については、ビル賃貸事業が主力事業であることから、引き続き長期・固定資金を主体に調達しております。今後も、期間中の金利状況や、調達済有利子負債の償還期間等とのバランスも考慮しながら、調達手段に柔軟性を持たせつつ運営を行って参る所存であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	1,980,000,000
計	1,980,000,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数 (株) (平成28年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成29年2月13日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協 会名	内容
普通株式	1,390,685,972	同左	東京証券取引所 名古屋証券取引所 各市場第一部	単元株式数は 1,000株であり ます。
計	1,390,685,972	同左	—	—

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成29年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成28年10月 1日～ 平成28年12月31日	—	1,390,685,972	—	141,659	—	170,771

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成28年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	(自己保有株式) 普通株式 2,970,000 (相互保有株式) 普通株式 10,000	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 1,382,741,000	1,382,741	—
単元未満株式	普通株式 4,964,972	—	一単元（1,000株） 未満の株式
発行済株式総数	1,390,685,972	—	—
総株主の議決権	—	1,382,741	—

(注) 1. 「完全議決権株式（その他）」には(株)証券保管振替機構名義の株式2,000株（議決権2個）が含まれております。
2. 「単元未満株式」には当社所有の自己株式516株、(株)証券保管振替機構名義の株式462株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成28年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
三菱地所(株)	東京都千代田区 大手町1の6の1	2,970,000	—	2,970,000	0.21
日本創造企画(株)	東京都千代田区 丸の内3の3の1	10,000	—	10,000	0.00
計	—	2,980,000	—	2,980,000	0.21

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成28年10月1日から平成28年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	412,983	234,187
受取手形及び営業未収入金	35,261	35,900
有価証券	14	13,300
販売用不動産	54,827	40,190
仕掛販売用不動産	366,354	378,513
開発用不動産	8,905	1,133
未成工事支出金	7,942	12,818
その他のたな卸資産	1,014	1,157
エクイティ出資	276,842	268,576
繰延税金資産	14,552	9,180
その他	55,764	78,790
貸倒引当金	△528	△342
流動資産合計	1,233,935	1,073,408
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,217,339	2,403,036
減価償却累計額及び減損損失累計額	△1,330,845	△1,449,167
建物及び構築物（純額）	886,494	953,869
機械装置及び運搬具	92,957	85,657
減価償却累計額及び減損損失累計額	△71,017	△65,386
機械装置及び運搬具（純額）	21,939	20,271
土地	1,955,451	1,960,201
信託土地	549,811	701,280
建設仮勘定	122,261	136,004
その他	44,797	45,716
減価償却累計額及び減損損失累計額	△29,692	△31,027
その他（純額）	15,105	14,689
有形固定資産合計	3,551,062	3,786,317
無形固定資産		
借地権	75,494	74,360
その他	32,289	24,346
無形固定資産合計	107,784	98,707
投資その他の資産		
投資有価証券	216,334	248,838
長期貸付金	1,406	1,430
敷金及び保証金	115,382	111,124
退職給付に係る資産	9,810	9,656
繰延税金資産	16,170	10,877
その他	61,578	65,764
貸倒引当金	△1,623	△1,616
投資その他の資産合計	419,058	446,075
固定資産合計	4,077,904	4,331,099
資産合計	5,311,840	5,404,508

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	58,331	51,292
短期借入金	103,125	95,906
1年内返済予定の長期借入金	163,651	161,226
1年内償還予定の社債	78,023	80,075
未払法人税等	22,903	13,194
繰延税金負債	—	1,412
事業譲渡損失引当金	10,570	—
その他	234,271	184,626
流動負債合計	670,877	587,733
固定負債		
社債	825,000	772,750
長期借入金	1,114,426	1,256,518
受入敷金保証金	393,309	399,244
繰延税金負債	180,205	220,435
再評価に係る繰延税金負債	265,912	263,661
退職給付に係る負債	32,464	31,299
役員退職慰労引当金	685	793
環境対策引当金	5,068	4,831
負ののれん	83,827	90,907
その他	80,882	68,367
固定負債合計	2,981,782	3,108,809
負債合計	3,652,660	3,696,543
純資産の部		
株主資本		
資本金	141,373	141,659
資本剰余金	161,188	161,475
利益剰余金	600,116	664,128
自己株式	△5,385	△5,455
株主資本合計	897,293	961,808
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	89,945	114,576
繰延ヘッジ損益	△30	△302
土地再評価差額金	521,248	524,073
為替換算調整勘定	13,900	△49,753
退職給付に係る調整累計額	△12,676	△10,111
その他の包括利益累計額合計	612,387	578,482
新株予約権	529	529
非支配株主持分	148,970	167,144
純資産合計	1,659,180	1,707,964
負債純資産合計	5,311,840	5,404,508

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年 4月 1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年 4月 1日 至 平成28年12月31日)
営業収益	711,965	824,111
営業原価	534,959	611,537
営業総利益	177,006	212,573
販売費及び一般管理費	55,766	62,129
営業利益	121,239	150,444
営業外収益		
受取利息	225	209
受取配当金	4,244	4,258
持分法による投資利益	1,559	869
その他	2,375	2,666
営業外収益合計	8,405	8,004
営業外費用		
支払利息	14,757	17,164
固定資産除却損	4,053	2,361
その他	1,643	2,311
営業外費用合計	20,454	21,836
経常利益	109,191	136,612
特別利益		
固定資産売却益	2,652	—
投資有価証券売却益	11,320	—
負ののれん発生益	—	13,505
未払金取崩益	4,098	—
受取和解金	—	1,966
特別利益合計	18,072	15,471
特別損失		
固定資産除却関連損	—	1,836
減損損失	—	1,287
段階取得に係る差損	—	6,431
特別損失合計	—	9,555
税金等調整前四半期純利益	127,263	142,528
法人税、住民税及び事業税	32,321	33,262
法人税等調整額	5,784	9,140
法人税等合計	38,105	42,403
四半期純利益	89,157	100,125
非支配株主に帰属する四半期純利益	10,723	10,740
親会社株主に帰属する四半期純利益	78,434	89,384

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年 4月 1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年 4月 1日 至 平成28年12月31日)
四半期純利益	89,157	100,125
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△17,326	24,637
繰延ヘッジ損益	△301	△467
土地再評価差額金	△0	2,427
為替換算調整勘定	△6,500	△62,906
退職給付に係る調整額	△498	2,586
持分法適用会社に対する持分相当額	△236	△1,732
その他の包括利益合計	△24,863	△35,455
四半期包括利益	64,294	64,670
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	53,759	55,083
非支配株主に係る四半期包括利益	10,534	9,586

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年 4月 1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年 4月 1日 至 平成28年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	127,263	142,528
減価償却費	54,559	56,545
有形固定資産除売却損益 (△は益)	165	1,567
有価証券売却損益 (△は益)	△11,320	△233
有価証券評価損益 (△は益)	—	88
減損損失	—	1,287
社債発行費	0	98
のれん償却額	4,670	4,115
負ののれん発生益	—	△13,505
段階取得に係る差損益 (△は益)	—	6,431
持分法による投資損益 (△は益)	△1,559	△869
引当金の増減額 (△は減少)	37	△891
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△2,196	2,667
受取利息及び受取配当金	△4,470	△4,468
支払利息	14,763	17,164
売上債権の増減額 (△は増加)	4,990	△3,037
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△19,653	47,207
エクイティ出資の増減額 (△は増加)	874	△23,040
前渡金の増減額 (△は増加)	△6,135	1,585
敷金及び保証金の増減額 (△は増加)	△4,113	△5,228
仕入債務の増減額 (△は減少)	△51,675	△12,381
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△2,366	4,159
預り敷金及び保証金の増減額 (△は減少)	476	△3,638
その他	△13,094	△63,321
小計	91,213	154,832
利息及び配当金の受取額	4,951	4,702
利息の支払額	△15,160	△17,281
法人税等の支払額	△14,651	△45,165
営業活動によるキャッシュ・フロー	66,353	97,087
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	92	197
定期預金の預入による支出	△76	△196
有価証券の売却及び償還による収入	10	8,200
有価証券の取得による支出	—	△6,749
有形固定資産の売却による収入	17,166	1,008
有形固定資産の取得による支出	△161,852	△195,326
投資有価証券の売却及び償還による収入	17,965	407
投資有価証券の取得による支出	△961	△3,846
借地権の売却による収入	835	104
借地権の取得による支出	△251	△276
短期貸付金の回収による収入	10	8
短期貸付けによる支出	—	△2
長期貸付金の回収による収入	33	49
共同事業による収入	6	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	10,978	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	—	△2,776
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	295
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△3,040	△52,929
その他	△2,078	△256
投資活動によるキャッシュ・フロー	△121,163	△252,088

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年 4月 1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年 4月 1日 至 平成28年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△16,077	△7,580
コマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少)	22,000	—
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△752	△614
長期借入れによる収入	240,710	200,871
長期借入金の返済による支出	△91,481	△117,268
社債の発行による収入	7,610	14,901
社債の償還による支出	△26,547	△66,506
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△107
自己株式の純増減額 (△は増加)	△198	△71
配当金の支払額	△20,663	△25,031
非支配株主への配当金の支払額	△6,596	△7,385
その他	△6,316	△1,102
財務活動によるキャッシュ・フロー	101,687	△9,895
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,025	△9,841
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	45,850	△174,737
現金及び現金同等物の期首残高	198,489	412,392
現金及び現金同等物の四半期末残高	*1 244,340	*1 237,654

【注記事項】

（会計方針の変更）

平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第1四半期連結会計期間より適用し、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ1,104百万円増加しております。

（追加情報）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

(1) 保証債務

下記の金融機関借入金に対し債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成28年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)	
住宅購入者	46,812百万円	住宅購入者	24,776百万円
その他	18百万円	その他	15百万円
計	46,830百万円	計	24,791百万円

住宅購入者の保証債務は、主として購入者の住宅ローンに関する抵当権設定登記完了までの金融機関に対する連帯保証債務であります。

(2) 事業引受保証

下記の金融機関借入金に対し事業引受保証を行っております。

前連結会計年度 (平成28年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)	
Flushing Commons	3,927百万円	Flushing Commons	5,802百万円
Property Owner, LLC	(32,566千米ドル)	Property Owner, LLC	(57,386千米ドル)
TRCC/Rock Outlet Center, LLC	3,109百万円 (25,779千米ドル)	TRCC/Rock Outlet Center, LLC	2,594百万円 (25,662千米ドル)
RG-IPA NG Phase I, LLC	297百万円 (2,468千米ドル)	RG-IPA NG Phase I, LLC	249百万円 (2,468千米ドル)
Market Street Office Trustee Pte.Ltd.	7,685百万円 (90,000千シンガポールドル)	—	—
Allamanda Residential Development Pte.Ltd.	2,753百万円 (32,250千シンガポールドル)	—	—
計	17,773百万円	計	8,647百万円

ロックフェラーグループ社は、Flushing Commons Property Owner, LLC、TRCC/Rock Outlet Center, LLC及びRG-IPA NG Phase I, LLCの事業について、債権者に対し持分相当額の事業引受保証を行っております。

(3) 追加出資義務

下記の金融機関借入金の返済義務に関連し追加出資義務を負っております。

前連結会計年度 (平成28年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)	
大手町デベロップメント特定目的会社	34,216百万円	—	—

大手町デベロップメント特定目的会社への追加出資義務については、当社の出資割合である50%となります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

*1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年 4月 1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年 4月 1日 至 平成28年12月31日)
現金及び預金勘定	244,905百万円	234,187百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△589百万円	△689百万円
取得日から満期または償還までの 期間が3か月以内の有価証券	25百万円	4,156百万円
現金及び現金同等物	244,340百万円	237,654百万円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	11,099	8	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金
平成27年10月30日 取締役会	普通株式	9,712	7	平成27年9月30日	平成27年12月2日	利益剰余金

II 当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	12,486	9	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金
平成28年11月7日 取締役会	普通株式	12,489	9	平成28年9月30日	平成28年12月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日）

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント									その他の事業 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ビル事業	生活産業 不動産事業	住宅事業	海外事業	投資マネジ メント事業	設計監 理事業	ホテル 事業	不動産 サービス 事業	計				
営業収益													
(1)外部顧客への営業収益	310,901	63,674	218,865	55,226	18,002	6,604	24,787	13,381	711,443	522	711,965	—	711,965
(2)セグメント間の 内部営業収益又は振替高	5,467	1,966	1,146	345	93	4,667	317	336	14,340	2,314	16,655	△16,655	—
計	316,368	65,640	220,012	55,571	18,096	11,271	25,104	13,717	725,783	2,837	728,620	△16,655	711,965
セグメント利益又は損失(△)	84,986	19,690	7,750	14,939	3,252	△301	1,818	△196	131,941	47	131,988	△10,749	121,239

- (注) 1. 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報システムの開発、保守管理、給与厚生研修関連業務の受託等を行っております。
2. セグメント利益又は損失の調整額△10,749百万円には、セグメント間取引消去△397百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△10,351百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書における営業利益の額と調整しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日）

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント									その他の事業 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ビル事業	生活産業 不動産事業	住宅事業	海外事業	投資マネジ メント事業	設計監 理事業	ホテル 事業	不動産 サービス 事業	計				
営業収益													
(1)外部顧客への営業収益	365,140	62,461	276,653	54,070	16,658	6,700	25,226	16,686	823,596	514	824,111	—	824,111
(2)セグメント間の 内部営業収益又は振替高	5,515	4,333	294	9	389	4,399	348	314	15,605	2,587	18,193	△18,193	—
計	370,656	66,794	276,947	54,079	17,047	11,099	25,575	17,000	839,201	3,102	842,304	△18,193	824,111
セグメント利益又は損失(△)	103,625	19,855	13,899	23,157	4,343	△621	2,024	504	166,789	188	166,977	△16,532	150,444

- (注) 1. 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報システムの開発、保守管理、給与厚生研修関連業務の受託等を行っております。
2. セグメント利益又は損失の調整額△16,532百万円には、セグメント間取引消去△1,063百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△15,469百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書における営業利益の額と調整しております。

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

(1) 取引の概要

①対象となった事業の内容

大日本企業株式会社が保有する山王パークタワーの共有持分等

②企業結合日

平成28年11月25日

③企業結合の法的形式

大日本企業株式会社が保有する山王パークタワーの共有持分等を、当社に対して交付する方法により行う現物配当

④結合後企業の名称

三菱地所株式会社

⑤その他取引の概要に関する事項

当社におけるポートフォリオの価値向上に向けた取り組みの一環として、大日本企業株式会社が保有する山王パークタワーの共有持分等を現物配当いたしました。

(2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年 4月 1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年 4月 1日 至 平成28年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	56円53銭	64円42銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	78,434	89,384
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益金額 (百万円)	78,434	89,384
普通株式の期中平均株式数 (株)	1,387,470,782	1,387,572,139
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	56円52銭	64円40銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (百万円)	—	—
普通株式増加数 (株)	310,983	310,848
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株 当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜 在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があ ったものの概要	—	—

2 【その他】

平成28年11月7日開催の取締役会において、平成28年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）の中間配当につき次の通り決議いたしました。

中間配当の総額	12,489百万円
1株当たりの中間配当金	9円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成28年12月2日

(注) 平成28年9月30日の最終株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、支払いを行いました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。